

卷丹
ケンタン

ヲニユリ



Lilium tigrinum Th.
C. L. ...

Secl II Tigrinolirien.

Siebold's Florilegium of Japanese Plants

Florilegium Plantarum Japonicarum Sieboldii

丸善株式会社創業125周年記念出版 ● シーボルト蔵「日本植物図譜」コレクション



英文による国際出版物「日本植物図譜」

の刊行にあたって

●ごあいさつにかえて●

文化遺産を継承するよろこび

丸善代表取締役社長 ●鈴木信夫

弊社は、ここにシーボルト日本植物図譜を上梓し、お届け致します。全部で1041図のコレクションの全貌をモノクローム版縮尺サイズで再現すると共に、川原慶賀を中心とする日本人絵師たちの描いた選りすぐった341図を原寸大のカラー図譜としました。振り返って1989年9月、当時のロシア、レニングラードにこのコレクションがあるとの情報が入りました。直ちに、信じられない、と興奮されておりましたが、本村陽二郎東大名義教授にお願ひし、レニングラードに飛んで見ました。先生は、現地にて現物に接し、改めてその色鮮やかな、完璧に保存されている一葉一葉に、目を奪われ、胸高項も瞬間だった、と話されておりました。

日本の近代化は、多くの西洋人の貢献無しでは、進まなかった、と言えますが、とりわけ、ケンペル、ツェンペラー、シーボルトの名前と業績は、冠たるものがあります。そして、彼らを通じて、多くの日本人が新しい知識の習得に没頭した事実も、実に感動的なものがあります。

弊社の創業も、こうした進取の気性に富んだ多くの人々の心組に通じるものがございました。125年前、西洋の新しい知識、文明を我が国に紹介する事業、今日流に言うならば、国際化と情報化への貢献を基本理念として創業し、その後の全ての企業活動の源に致して参りました。

数奇な運命を辿ってロシア科学アカデミーに収蔵されるに至ったシーボルトコレクションを、ほぼオリジナルに近い形で出版することによって、日本の豊かな植物相を世界に伝えようとしたシーボルトの卓見と、かれの要請に応じて多くの日本人絵師が残した驚嘆すべき画業、さらにはコレクション構築に尽力したマキシモヴィッチらの熱意、まさに、国境を超えた先人達の英知の交流と結集の偉業へのオマージュとして、捧げたい、と考えます。

鈴木信夫

●監修にあたって●

シーボルトを感嘆させた慶賀の画業

東京大学名誉教授 ●本村陽二郎

1823年、長崎は出島の開港場に入ったシーボルトは、間もなくたぐり一人出入りを許されていた出島の絵師、川原慶賀に出会った。以来シーボルトは日本滞在中慶賀に多数の植物図を描かせた。シーボルトが慶賀の絵を土台として欧州の絵師に植物図を描かせ、「フローラ・ヤポニカ」の第一分冊を出版したのは1835年で、その100図をまとめた第一巻が出版されたのは1841年である。シーボルトは、来日のときから相当数の日本植物の図譜を計画していた。1861年の再来日のときも、さらに優秀な画家をもとめて植物図を描かせていた。彼が、著書にフローラ・ヤポニカを著名としたのも彼の意図が窺われる。

「フローラ・ヤポニカ」はその後、1879年には150図まで出版されたが、それで終わり、慶賀の描いた多数の植物図はそのまま印刷されず埋もれていた。アレーシナ女史の論文により、この慶賀とその他の人の絵からなるシーボルト・コレクションがセント・ペテルスブルグのコマロフ植物研究所に完全に保存されていることを知った丸善株式会社はその出版を考え、私はたのまれて、はじめて同研究所を訪れ、シーボルト・コレクションの植物図をみて感動した。

シーボルトについて日本植物を志したのはマキシモヴィッチであった。彼は、シーボルトの日本再来訪のときの植物標本、川原慶賀日本人の多くの植物図、日本で撮影した写真、シーボルトの得たツェンペラーの植物図譜、これらいわゆるシーボルト・コレクションを購入することを心に決め、ロシアのアカデミーに実行させたことは成功して、セント・ペテルスブルグの地に残ったことは幸いであった。

慶賀の絵が下絵になっているのではないかと、かつて予想していたが、慶賀の描いたままの植物図と「フローラ・ヤポニカ」とをくらべてみて感動的なものがあった。人の好みにもよるが、慶賀の絵の方が自然の植物から直接に描かれているだけに迫力があり、すぐれて見えた。伝統の長崎絵の写実性に加えて当時の洋風、欧州画の表現の長所を生かし、シーボルトの指導のもとに描かれた慶賀の植物図は他にみられない独特の表現をしている。写実的ではあるが、その自然部分の切りとり方でその植物の性質を生かしている。

本書で初めて復原された植物図は学術的に貴重であるのみならず、植物図として科学的にも正確な点と芸術的美を共に備えた最高の植物図であり、植物学、科学史、絵画史の専門家に限らず広く植物を愛する人々の宝であろう。

本村陽二郎

Japan's modernization was accomplished through the contributions of westerners like Ph. Fr. von Siebold, as well as of the many Japanese who were eager to gain new knowledge from these westerners. Maruzen Company, founded 125 years ago, has continued to implement its philosophy of contributing to international unity through mutual communication and understanding.

We are pleased to announce that we will soon publish Siebold's collection of illustrations of Japanese plants, the completion and preservation of which were also the result of human activity transcending national borders.

We would like to dedicate this publication the people throughout history who have been committed to such activity.

Nobuo Suzuki
President of Maruzen Co., Ltd.

When Ph. Fr. von Siebold lived in Japan, he asked Keiga Kawahara and other Japanese artists to draw pictures of Japanese plants. Siebold published "Flora Japonica", including 150 illustrations, between 1835 and 1870. But these illustrations were by European artists, based on Keiga's drawings. Thus, many of Keiga's pictures have remained unpublished and unknown.

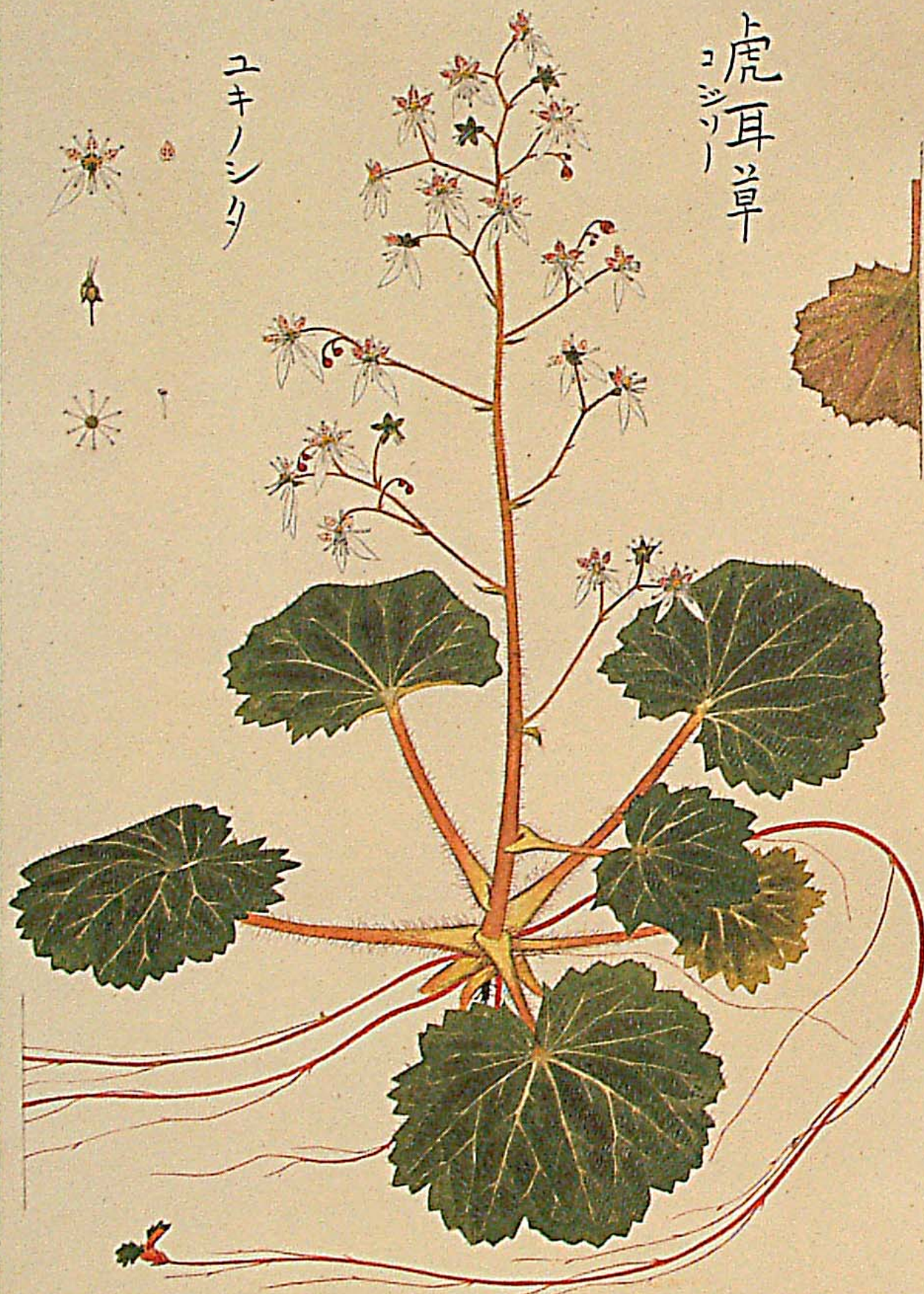
The library of the Komarov Botanical Institute, a subsidiary of the Russian Academy of Sciences in St. Petersburg has preserved Siebold's entire collection, including many original drawings by Keiga. These drawings reveal his unique talent, and are more vivid than the illustrations in "Flora Japonica".

The drawings of plants reproduced and published by Maruzen for the first time are not only invaluable academically; they are models of scientific accuracy and artistic beauty. They will surely be treasured by all plant lovers, as well as by experts in botany, science history and art history.

Yojiro Kimura
Professor Emeritus, Tokyo University

虎耳草
コジロ

ユキノシタ



日本長崎壹興軒画





すばらしい、などというだけではとても足りない。

このシーボルト・コレクションの日本植物図説百枚を（原色複製によって）一枚一枚ひろげて見てゆくうちに、さまざまな感動が、壁にあふれる水のように、心に湧き、静かにあふれ出してくる。

まず、千枚をこえるという植物写真原図が、今回日本側に知られるまでにたどってきた、その数奇な運命である。その経緯については本村教授が詳述しているが、長崎の出身絵師川原慶賀らによってこの大平が描かれたのが、シーボルトの第一回滞日の期間（1823-29）だとすると、これは制作からなんと170年近くたって、いまはじめて私たちの目の前にあらわれてきたのである。それも、まるで昨日描かれたような、匂い立つようなあざやかさで。——その途中にシーボルト夫人やロシアの日本通の植物学者マキシモヴィッチがかかわってからでもすでに100年余、いまソ連が解体したあとのサンクト・ペテルブルグで、ついにその全貌が知られることとなった。

そしてなによりも、これらの絵画一枚一枚の作品に満ちた美しさが、私たちの心をよもわせてやまない。私も、もともと奇才川原慶賀の絵が好きで、1976年にはライデンに赴いて、民族学博物館でその「長崎滞日記」や「日本人の一生」や「職人尽し」などの絵巻から、動物物の写真原図までを、二日がかりで複製したことがあった。その前後にも、さらに膨大なコレクションがレニングラードにあるはずだとの話は聞いていた。

だが、その実体がこれほど大判の絵画に、これほど精緻に、しかも陰影に富んで繊細に生み出された植物図だとはい、思いもよらなかった。「雲花地丁、コマメツメ」と題し「慶賀」と署名して印を押した一点では、その美しい花の小さな花は、ふっと息を吹きかければすぐにもゆらぎそうだし、その甘い香気は手で触れればいまでもそのかすかに伝わりやうとした感触を伝えそうに思われる。「博、クハヒ」の葉の裏に群れる花も、さわれば香りを立ててこぼれ落ちそうだ。「露香百合、シロユリ」の、結核の泡を生かした花弁のなかに、雄しべの花粉は分厚いほどの黄色に塗りあがり。「玫瑰花、ハナナス」はその淡い茶色の花弁の薄くまぐれたすがたが美しい。

花のみならず、葉や茎や根、あるいは果実などの、その感触までとらえた繊細さ、美しさは、慶賀の作ばかりでなく、川原玉賀や清水東谷など他の絵師の作についても同様である。これは18世紀前半の近衛子実院の「花木真実」以来の徳川博物図説の系譜に立て、精緻さにおいて子実院にまさりながら、なお子実院の気品を失うことなく増えた、この系譜最高の秀作の集大成といえるのだろう。

それにしても慶賀らは、この一点一点を描くのにどれほどの時間をかけたのだろう。画具と筆とを手にして、日本列島の四季の木々や草花を一つ一つ目の前にて、息をこらえて描くようにしてそれらを描いていったとき、絵師と対象との間に生じた一種の生理的な共感、そしてそこに流れた長いひっそりとした徳川の時間——それすらも感じとられるように思うとき、この植物図説の集大成が私たちに与える感動は、さらに一段と深いものとなる。

芳賀 徹

The word "remarkable" does not adequately describe the Siebold collection. Each of the drawings deeply impressed me.

I was impressed, first of all, by the long, mysterious route that these illustrations of flora—more than 1,000 drawings—traveled before their existence was finally known of in Japan. Nearly 170 years after they were drawn by Japanese artists such as Keiga Kawahara, the illustrations were revealed to us.

In addition, I was astonished and deeply moved by the works' refined beauty. I had not imagined that the drawings by Keiga and other artists would be so delicate, so accurate, or so beautiful. They can be considered the greatest masterpieces of nature illustration from the Edo period.

To be able to sense the artists' feeling of unity with the plants they draw and imagine the many tranquil hours they spent on these works, is to be even more deeply impressed by this collection.

Toru Haga
Professor

International Research Center for Japanese Studies

明治維新前日本を訪れて日本の植物を調べた外国人の学者には、ケンペル(1690-1692 滞日)、フュンベリ(1773-1776 滞日)、シーボルト(1823-1829、1859-1862 滞日)、マキシモウィッチ(1860-1863 滞日)が知られている。このうち、ケンペルとシーボルトはドイツ人、フュンベリはスウェーデン人、マキシモウィッチはロシア人である。先の3人は、まだ鎖国時代であったから、全てオランダ人になりすまして入国した。ケンペルとシーボルトには日本学(Japanology)の著書もあるが、4人とも日本の植物を海外に紹介した功績は大きい。特にシーボルトは、前後2回数年間に亘って長崎に滞在し、長崎奉行の特許な計らいで長崎市内や近郊での採集が許された。また、オランダ商館長ブロンホフの江戸参府に随行して、その道中や江戸滞在中、多くの人を介して植物採集につとめ、その見聞を大いに広めた。シーボルトは医師でもあったから、日本人の弟子や通訳連の援助も得て、日本植物に関する調査をうまく進めることができた。また、長崎島内に小さな植物園をつくり、各地で採集した植物の干種を植え、その季節ごとの花や実の変化を観察し、画家に写生させた。江戸参府の道中にも画家を帯同して、採集品や野生状態を写させた。

シーボルトは帰国後、ミュンヘン大学教員で植物学者のツッカーニの協力を得て、フローラ・ヤポニカ「日本植物誌」2巻を完成した。これは、ファウナ・ヤポニカ「日本動物誌」それに日本の歴史、地理、風俗を記述した「日本」と共に、3部作をなしている。

フローラ・ヤポニカは見事な植物図譜であるが、膨大な採集品のうち、1500種を収載するに留まった。シーボルトの日本に於ける植物採集標本、写生原図は、彼の没後、未亡人によってロシア・アカデミーに売却され、その植物図譜1041点は現在サンクトペテルブルグのロシア科学アカデミー・コマロフ植物研究所に所蔵されている。これがこの度、グルボフ同研究所植物標本部長の好意により、木村昌二郎東大名名誉教授、大場秀章東大助教授の監修の下に、丸書の創立125周年記念出版として世に出ることになった。このうち、341図は原寸大のカラー図譜として、全1041図は縮刷モノクローム版として和文解説を付して出版されるが、カラー版は現代最高の技術の下に直接写真複製されたもので、原図の彩色をそのまま再現することに成功している。特記すべきことは、この原図の一部はオランダ画家Villeneuveの手になったものもあるが、多くは当時の日本人画家川原慶賀、清水東谷、川原正賀の筆になるもので、特に川原慶賀のものが最も多く、また優れている。フローラ・ヤポニカの彩色植物図は、この慶賀の図を下絵としてドイツ人画家が生きている原植物を見ないで彩色を施したもので、尊厳ではあるが、直接写生した慶賀の図のほうがより真実の姿を示しているように思われる。川原慶賀(1766-1862)は長崎生まれの医師で、シーボルトのために植物図のみならず、彼の著書「日本」を飾る人物画、風俗画も描いているが、その筆触は洋画の方式を巧みに取り込んで独特な立体感を表現している。今回、この門外不出の図譜がシーボルト「日本植物図譜」として出版されることは誠に意義深いものがある。これには、当時の薬用、有用、園藝植物の多くのものが含まれ、学術的にはその表現が精緻を極めており、しかも芸術的である。このコレクションの再現によって、既にフローラ・ヤポニカで有名なシーボルトの日本植物に関する研究の価値が一層高められ、広く知られることとなる。

柴田 承二

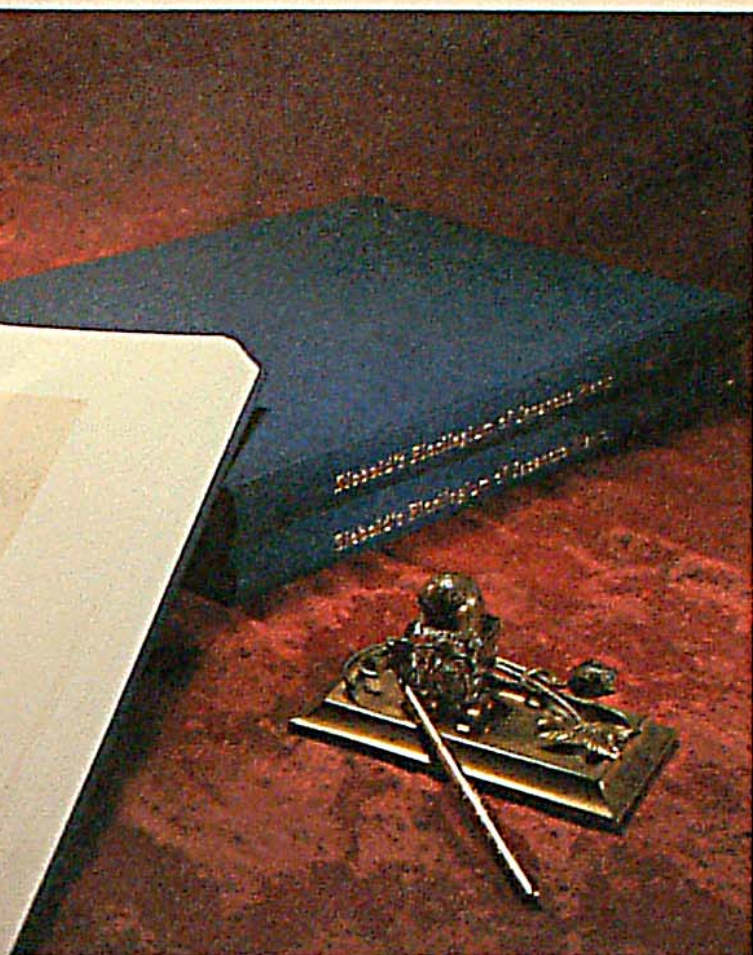
In the 19th century, Ph. Fr. von Siebold collected plants in Nagasaki and other areas of Japan. He built a small botanical garden in Nagasaki with about 1,000 varieties of plants, and asked artists to make drawings of plants. After returning to his own country, Siebold completed "Flora Japonica", a two-volume set of illustrated books on Japanese plants. But these books contained only 150 illustrations. Of the drawings that Siebold commissioned in Japan, 1,041 were acquired by the Komarov Botanical Institute of the Russian Academy of Sciences, where they have remained ever since.

These drawings are to be published by Maruzen as a collection of photographs. Of these, 341 are full-size color illustrations which, thanks to state-of-the-art technology, faithfully reproduce the illustrations' original colors. Many of the illustrations are by the gifted Japanese artist Keiga Kawahara, and are more accurate than the works in "Flora Japonica".

The pictures in this collection show remarkable sensitivity in terms of both science and art. With the collection's publication, Siebold's study of Japanese plants will become more widely known and more highly valued.

Shoji Shibata
Professor Emeritus (Pharmacology)
Tokyo University





●フィリップ・フランツ・フォン・シーボルトの経歴

The Career of Philipp Franz von Siebold

ウィリアム・T・スターン/William T. Stearn

シーボルトは、日本における植物学と園芸が盛んな状況に感動を受けた。日本では「シーボルト (Shiboruto)」として、彼の名は現在でも著名である。ヨーロッパとアメリカの間には、いまだ日本植物の多くを、この橋樑で渡り越えてきてはじめて才能のある医者により導入されたものに直接負っており、このことは日本の種のかくも多くがシーボルトとシーボルディアナという小種名を保持していることに対応している。

'In Japan as "Shiboruto" his is still an honored name. European and American gardens still owe many of their Japanese plants directly to introductions made by this masterful and arrogant many-sided and extraordinarily gifted doctor and it is thus fitting that so many of Japanese species bear the epithet *sieboldii* and *sieboldiana*.'

●シーボルトの「フロラ・ヤポニカ」と「フロリレギウム」

Siebold and Keiga: Their careers and achievements

木村瑞二郎/Yojiro Kimura

日本の植物を調べた外人の代表といえば、出島の三学者といわれるケンペル、ツェンバー、シーボルトということになるが、開国後、彼らの日本植物への情熱を受けつたのがマキシモヴィッチであった。といえるだろう。一度買収は立派で、独特の手法で立体感を出し、形は自然でしかも配置が美しい。それで署名がなくても彼の図は特定できる。

'Keiga's paintings are magnificently and distinctively executed, stereographic effects being achieved by a unique graphic technique, without the shading employed in conventional Western paintings; their form is natural, and their composition is beautiful. Even when unsigned, they can be clearly identified as Keiga's work.'

●ロシアにあるシーボルトの植物図譜と植物標本

Philipp Franz von Siebold's Botanical Drawings and Herbarium Specimens in Russia

V. I. グルゾフとM. E. キルピチニコフ/Vasily I. Grubov and Muzaj E. Kirpichnikov

記録文書の検討によって得られる結論は、図譜コレクションを含めた全てのシーボルト資料は、……当時の植物博物館がその費用をもってマキシモヴィッチを通じて1869年にヴュルツブルクにて購入されたということである。

'The archive materials examined lead to the following conclusion: all Siebold's material... were bought by Maximowicz in Würzburg in 1869 for the Botanical Museum and at its expense.'

●シーボルトとロシア：発見された書簡集から

Siebold and the Russian Government

保田幸一/Kiichi Yasuda

また1863年3月11日付のタハチョフ提督の航海日誌によると、シーボルトは長崎でタハチョフに彼の死後蔵書その他のコレクションを先ずロシア政府に買取りを提案せよという遺言を残していると言明している。

'Admiral Likhachev's nautical log entry dated 11th March 1863 states that while in Nagasaki, Siebold had expressed the wish that after his death, first of all, the purchase of his books and other items in his collection be proposed to the Russian government by Likhachev.'

●シーボルトが日本植物図譜コレクションと関連に書かれたノートから見たその歴史

Siebold's Flora Japonica delineationibus et in Hibernia Notae et Inscriptiones on the Illustrations

タマラ・チェルナヤ/Tamara Tchernaya

このコレクションの中で一番新しいものは、シーボルトの第2回訪日時に集めた1862年の日付のあるものである。最も古いものは、ガイケマの描いた1820年のものである。とはいえ、シーボルトが1823年以前に入手したとは思われないので、このコレクションは1823年より1862年の間に集成されたものであると確信している。

'The latest illustrations in the Collection... they are dated 1862. The earliest dated illustration in the Collection... could hardly have been obtained by Siebold before 1823; ... That is why we are absolutely convinced that the Collection was formed during 1823-1862.'

●シーボルト植物コレクション目録：序論

Catalogue of the Siebold Collection of Botanical Illustrations in St. Petersburg: An introduction

大塚寛一/Hideaki Ohba

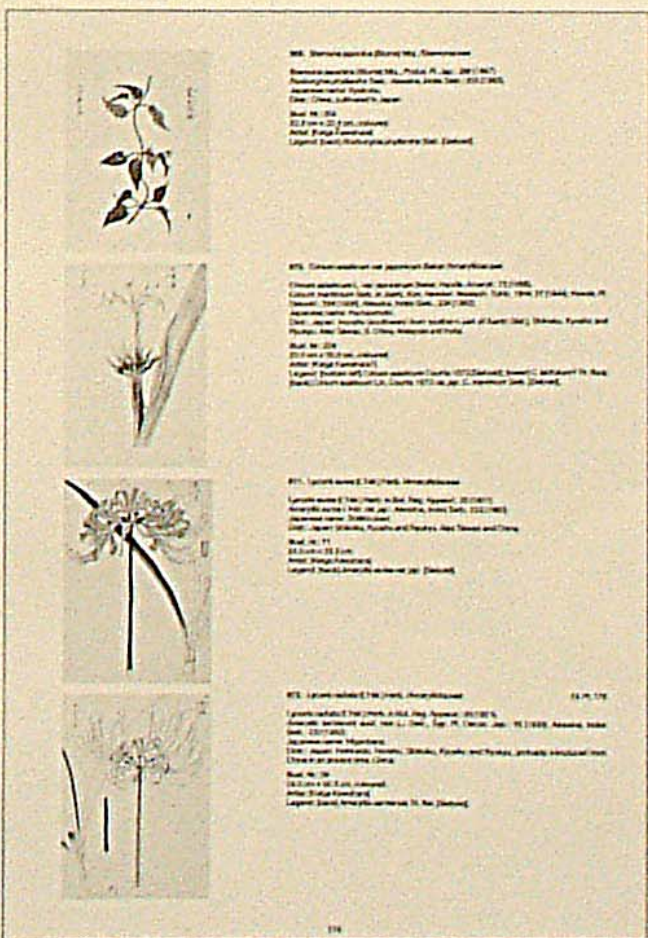
本目録では、各植物画ごとに、通し番号、種の学名、科名、科名の項目から始め、以下に掲げる項目のデータを含む。

1)種(または亜種、変種などの)学名とその出典および主要文献 2)必要な英名 3)和名 4)分布 5)コマロフ植物図で与えられた各国の番号 6)画の大きさと種類 7)画家名 8)シーボルトやマキシモヴィッチが記入した学名9)画や植物についてのノート。

'Each entry in the catalogue begins with the serial number, species name and family name, and provides data as follows:

1) the species or infra-specific name; 2) the significant synonyms; 3) Japanese name; 4) distribution; 5) the given number of the illustrations; 6) size of and kind of the illustration; 7) artist; 8) the botanical names written on the illustrations; 9) note of the illustration and plants.'

●第二巻：モノクローム版 0001



フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト (1796-1866)、博物学探検家とさき科びたい氏が、その遺言によって千枚におよぶ日本植物図譜をサント・ペテルブルクの帝室植物博物館に遺贈した。これらは、当時ロシア帝室科学アカデミー会員で、帝室植物博物館の主任研究員でもあったC. J. マキシモヴィッチ (1827-1891) の努力で購入されたものであり、現在博物館の蔵書といえるロシア科学アカデミー図書館コマロフ植物研究所分館図書室で保管されている。この歴史については、新たに見出された資料を基に執筆された論文によって発表される。シーボルトの日記には、その第一回訪日 (1823-1829) と第二回訪日 (1859-1862) のものがあるが、日本植物に対する記述がたぐさあり、この間植物標本の収集と図譜を描かせたようである。これについても、論文のなかで詳論されよう。

この本は、シーボルトがJ. G. ユッカーニの助力を得たとは言え、植物学探検家であったことを示そう。我々は、シーボルトと共に、日本植物研究を深める為にこれら図譜やツェンバーの未公開日本植物図譜などを収集してくれていたマキシモヴィッチに、この本を献げたい。

This book shows you that Siebold was not only an introducer of Japan to the Western world, Japanologist, philologist, and plant hunter but also a botanical explorer with a help of J.G. Zuccarini (1797-1848). And we want to dedicate this book to Maximowicz who had intended to advance the study of flora of Japan through these illustrations, Thunberg's unpublished *Icones Plantarum Japonicarum*, and so on.

第一巻●原寸で見る文化の息吹。

第一巻は二分冊により成り、1a巻には201枚の川原慶賀による未公開図譜が収められる。1b巻には、慶賀の図でシーボルト『日本植物誌』に使用されたもの62点、他の図師や西画所蔵によるもの67点、版下に利用されたもの11点が、すべて原寸で再現される。

ロシア科学アカデミー会員A. タクタヂヤン博士は、「まえがき」で次のように述べる。「これらは、多くのものが傑作と言えるものであると同時に、植物学上の図譜として最高の価値を有するといえる過言ではない。ほとんどのものが自然にある植物から直接描かれ、非常に繊細な、描線の正確さ、色彩の見事さ、これらはその特徴として挙げられましょう。」

Vol. Ia contains unpublished 201 illustrations of Keiga Kawahara (1784-1962?). Keiga was employed as an artist by Siebold in his first visit to Japan.

Vol. Ib shows you original 62 drawings of Keiga for *Flora Japonica*, its 11 block copies by Western artists, and other 62 drawings by Japanese and Western artists and scholars, which were all collected by Siebold.

第二巻●総合資料としての貴重な礎。

第二巻は、論文5編とカタログより構成される。

カタログは、全1041図譜 (白黒縮小写真) に、学名、記録がそれぞれ収められる。各植物は、各科ごとに属名のアルファベット順に配列される。科の定義と配列は原則として被子植物はメルキオール (1964)、裸子植物はビルガーとメルキオール (1954) によっている。

This volume consists of two parts, 5 articles and a catalogue.

A catalogue of the 1041 illustrations consists of brilliantly reduced black and white photos of them, modern scientific botanical descriptions, and historical documents of Siebold and Maximowicz. These descriptions are provided in the alphabetical order of the genera in each family. The delimitation and arrangement of the families principally follow Melchior (1964) for Angiosperms, and Pögl and Melchior (1954) for Gymnosperms.

シーボルト旧蔵「日本植物図譜」

■原図所蔵：ロシア科学アカデミー・コマロフ植物研究所
(ロシア共産党サント・ペテルブルク)

■監修：木村昌二 (東京大学名誉教授)
V. グルボフ (コマロフ植物研究所・前植物標本部員)

■構成：全二巻 (3冊) 及び和文解説図 (1冊)

●第一巻 (2冊) : カラー図譜 (原寸大) 341図、索引

●第二巻 (1冊) : モノクローム版 (縮小) 1041図、論文、索引

●和文解説図 (1冊)

■版型その他：B3版クロス装丁

■出版部数：限定450部

■価格：¥980,000 (税別)

※1部のみ合わせ、ご注文は最寄りの弊社本支店・営業所までお願い致します。

SIEBOLD'S FLORILEGIUM OF JAPANESE PLANTS

Florilegium Plantarum Japonicarum Sieboldi

Held in the Library of the Komarov Botanical Institute, a Subsidiary of the Library of the Russian Academy of Sciences, St. Petersburg.

Ed. by Dr. Yojiro Kimura, Tokyo and Dr. Valerij I. Grubov, St. Petersburg.

2 Vols. in 3 Books. Deluxe 450 Copies Limited Edition.

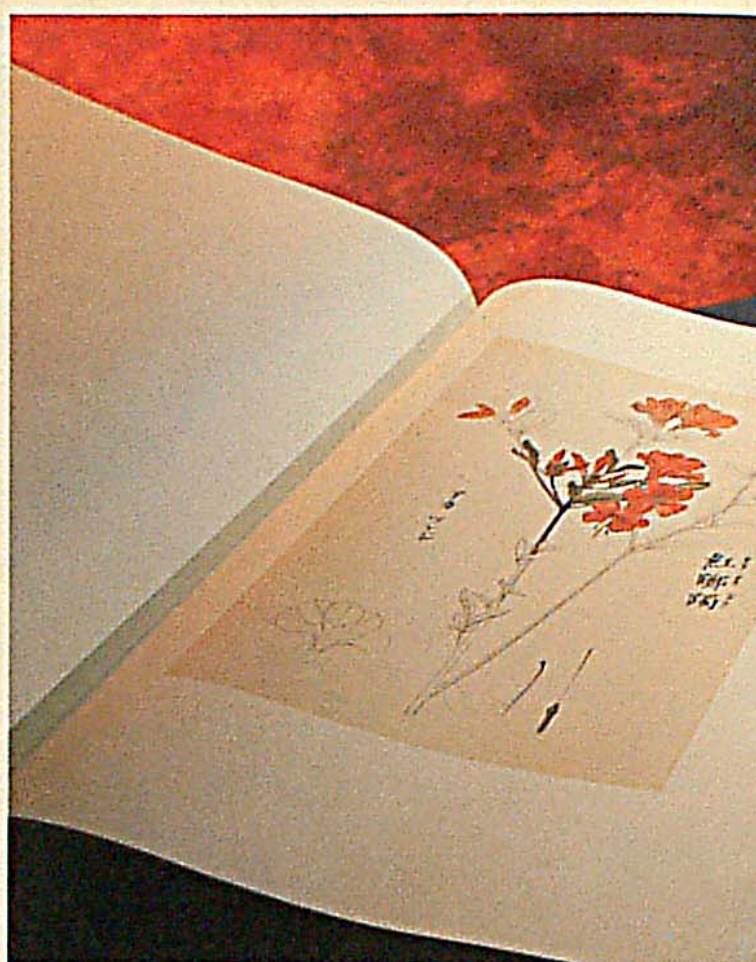
Special Cloth Binding. Size: B3. 1994. ¥980,000.

Vol. I (2 Books): 341 Illustrations in Full Size and Full Colour.

Vol. II: 1041 B/W Reduced Illustrations with Commentary and Articles.

Published by MARUZEN CO. LTD., Tokyo.

Distributed by Detlev Auvermann, Germany (for the International Market except Japan).



●第一巻：カラー図譜 (原寸大)





丸善株式会社 [学術情報ソリューション事業部 企画開発センター]

〒105-0022 東京都港区海岸 1-9-18 国際浜松町ビル 7F

TEL 03-6367-6078 FAX 03-6367-6184 <http://www.maruzen.co.jp/>

営業部・支店・営業所＝横浜・八王子・大宮・筑波／札幌・盛岡・仙台・名古屋・岐阜・
金沢・京都・大阪・神戸・岡山・松山・広島・福岡・長崎・熊本・沖縄／ニュージャージー